

稲武まちづくり構想（概要版）

H28.5

稲武まちづくり構想を策定しました。本構想に基づき事業展開していきます。

稲武地域まちづくり推進協議会（事務局：豊田市稲武支所）

1. 経緯

国土交通省では、「道の駅」を経済の好循環を地方に行き渡らせる成長戦略の強力なツールと位置づけ、地方創生の拠点とする先駆的な取組をモデル箇所として選定し、重点的に支援しています。

平成27年1月に「どんぐりの里いなぶ」が重点「道の駅」に選定（全国で35箇所、県内では唯一）され、観光総合案内、地方移住等促進、産業振興の機能を拡充する地方創生の拠点としての取組が進められることになりました。

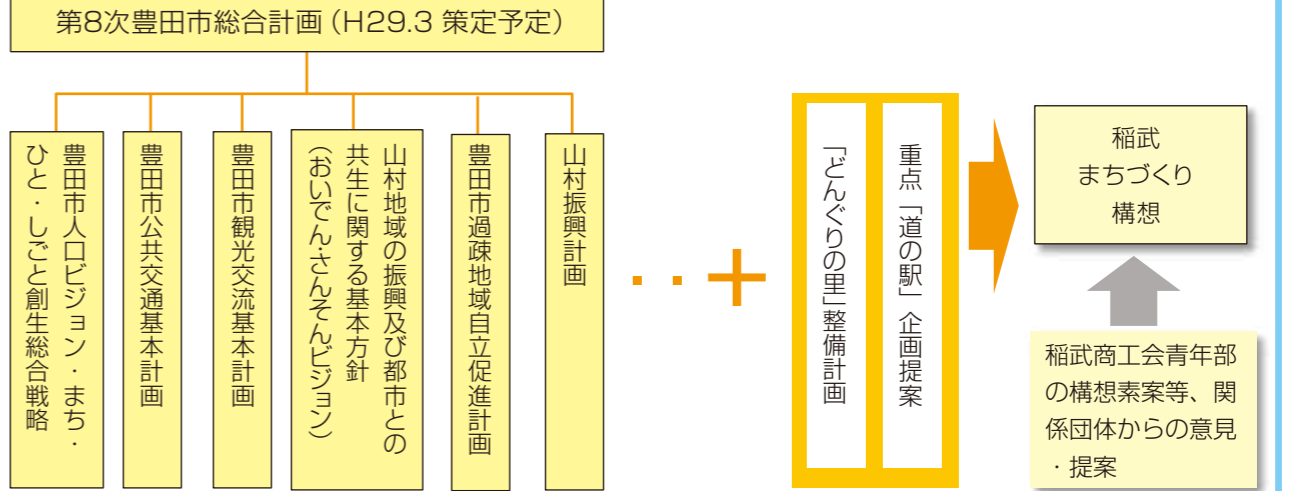
これを受け、平成27年6月に、重点「道の駅」を契機として稲武地域全体のまちづくり構想（ビジョン）等を検討する稲武地域まちづくり推進協議会を設立しました。稲武商工会、稲武商工会青年部、いなぶ観光協会を始めとした地域を代表する様々な団体から意見・提案を受け、検討を続けてきました。

さらに、本市では、「山村地域の振興及び都市との共生に関する基本方針（おいでん・さんそんビジョン）」（平成28年3月）を策定し“自立”と“つながり”で支え合い、豊かさを想像する山村づくりを目指しています。

このような背景のもと、道の駅「どんぐりの里いなぶ」を核とした将来の稲武地区のまちづくりの計画となる『稲武まちづくり構想』を策定しました。

■計画の位置づけ

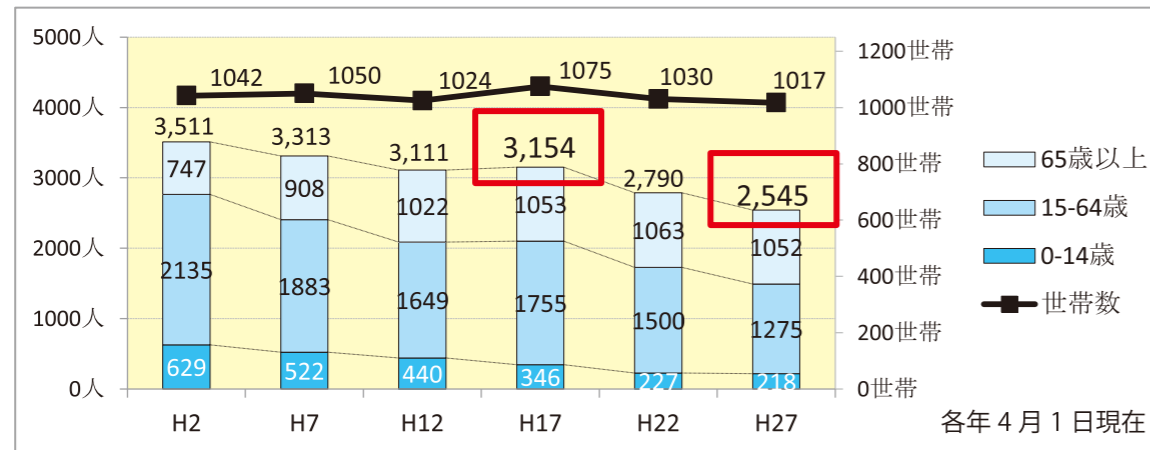
・市の上位計画及び各分野計画、稲武地区関係団体からの意見を反映した計画とします。



2. 現状と課題

■稲武地区の人口の推移

・平成27年4月1日現在、平成2年からの比較で966人の人口が減少しています



■過疎化から発生するさまざまな課題

農林業の衰退	自治体運営に支障	商店街の衰退	学校の存続不安	災害時の不安
<p>就業人口の減少、高齢化の進行、後継者不足、鳥獣被害による営農意欲の衰退、耕作放棄地の増加</p>	<p>役員のなり手不足、業務の負担増、自治体活動の敬遠、自治体の弱体化</p>	<p>継承者不足、閉店の増加、閑散とした町並、魅力の減少、来客数の減少</p>	<p>若者の流出、子ども数の減少、子育て世代の不安増、転居希望の増加、小中学校の閉校懸念</p>	<p>土砂災害、風水害、雪害等の自然災害による集落の孤立、単独世帯の安否確認難、高齢化に伴う共助体制の弱体化</p>

過疎化の進行により耕作放棄地が増加し、商店街が衰退するとともに、自治体の運営に支障をきたしています。現在、稲武地区の商店街には一通りの買い物やサービスが受けられる商店・事業所がありますが、過疎化が進めば、商店や事務所の経営が成り立たなくなり、閉店を余儀なくされます。また、地域の住民が稲武地区外で買い物やサービスを求めることになると、ますます過疎化に拍車がかかることになり、近い将来において自治体運営や住民のコミュニティ形成の機能維持の崩壊に直結します。

3. 稲武地区の地域資源と周辺事業

■稲武地区の資源

自然環境	滞在・体験型施設	歴史文化施設	潜在的な資源
<p>大井平公園、どんぐりの森、面ノ木原生林、夏焼城ヶ山、タカドヤ湿地、黒田ダム、名倉川散策路、押川大滝</p>	<p>道の駅どんぐりの里いなぶ、面ノ木風力発電、どんぐり工房、稲武CC</p>	<p>古橋懐古館、城山公園、郷土資料館</p>	<p>旧田口高校跡地、教職員住宅、空き家、空き地、休耕地、財産区有林</p>

道の駅「どんぐりの里いなぶ」は、年間約60万人超が訪れる施設であり、ここに訪れる人々を稲武地区の活性化につなげる必要があります。また、豊田市は「環境モデル都市」として環境に関わる各種の事業を実施しています。稲武地区には他の地区にはない面ノ木風力発電などの環境に関する施設があるため、環境面での見える化が可能となります。

■稲武地区にかかわる大きな事業

リニア中央新幹線	ラグビーワールドカップ	伊勢神改良	製材工場	獣肉活用施設
<p>新幹線の整備計画路線のうち品川駅～名古屋駅間を先行開業（平成39年開業予定）。長野県駅は飯田市、岐阜県駅は中津川市に設置</p>	<p>豊田スタジアムは2019年に開催されるラグビーワールドカップの試合会場</p>	<p>明川町⇄小田木町にわたるトンネルを新設（一般国道153号伊勢神改良）</p>	<p>御船町内に製材工場を誘致。産業としての林業の活性化、効率的な森林資源の活用、就業機会の増加などを目的に計画</p>	<p>新盛町内に民間が獣肉活用施設を建設。有害獣を豊富な食材資源と捉え安全安心な獣肉の流通と獣害被害の軽減を目的にH28から稼働</p>

リニア中央新幹線が開通すると稲武地区は豊田市の『北の玄関口』にもなり、市全体の観光PR・市特産品販売の役割拡大が求められます。また、ラグビーワールドカップ開催を踏まえ、外国人のおもてなしなども考慮する必要があります。製材工場や獣肉活用施設は、稲武地区の課題である山林管理や獣害被害の解決に不可欠な施設でもあり、両施設を有効に活用した取組が重要となります。

4. 取組方針 道の駅「どんぐりの里いなぶ」を核としたまちづくりを推進します

滞在型・着地型観光の充実・強化 (回遊性・滞留性の向上)

—どんぐりの森・棚田の取組—

・どんぐりの森遊歩道整備	着手済
・棚田の活用 (ラベンダー、水田オーナー、赤そばなど)	実施予定
・棚田の水源確保・保全	実施予定
・観光農園	検討

—大井平・名倉川・城山の取組—

・自然景観の維持・保全	実施済
・名倉川遊歩道の整備・竹林間伐	実施済
・名倉川での観光やなの復活	検討
・城山公園の整備	検討

—まちなか回遊の取組—

●稲武レトロ街道（市道稲武線）	
・まちなみの保全・魅力向上	実施予定
・滞留・交流空間の確保	検討
・カラー舗装、一方通行	検討
・看板の撤去	検討
・商店・飲食店の「おもてなし力」の向上	実施予定
●施設の有効活用、周辺整備	
・商工会館の活用	検討
・古橋懐古館周辺を歴史・ものづくりの発信基地	検討
・空き家、空き店舗、古民家の活用	検討
・子ども・観光客の遊び場整備	検討

道の駅を核とした取組

道の駅を核とした取組

道の駅を核とした取組

—道の駅「どんぐりの里いなぶ」の取組—

●観光総合機能	
・豊田市の「北の玄関口」として、市全体の観光PR	着手済
・移住・雇用等の定住促進を図る機能を付加	実施予定
・外国人観光案内所(JNTO)の開設、案内機能及び多言語表記の拡充	実施済
・無料公衆無線LANの設置	実施済
・どんぐり工房の体験メニューの拡充（着地型観光）	実施予定
・観光ボランティアガイド	実施済
・道の駅を拠点とした散策コースのPR	実施済
・道の駅施設・地域を巻き込んだ定期的なイベント開催	実施済
●産業振興・地域振興	
・どんぐり横丁の拡張・リニューアル	実施予定
・市特産品の販売拡大	実施予定
・地域の特産を使ったオリジナル商品開発、ブランド化推進	着手済
・案内看板設置（地区内・周辺観光、散策コース等）	実施予定
・動線の整備、滞留空間の確保	検討
・足湯の設置	検討
●駐車場対策、交通対策	
・EV充電器（普通充電・急速充電）の設置	実施済
・交通結節点（バス停留所及びバス転回場、パーク＆ライド駐車場）	実施予定
・駐輪場、大型バス駐車場	検討
・豊田市駅直通バスの運行（いなぶ快速便）	実施済
・駐車場出入口安全対策、空駐車場誘導案内表示	検討
●防災機能の強化	
・防災トイレ・自家発電装置（国交省管理部分）の設置	実施済
・備蓄等の確保、道路利用者の一時避難機能の強化	検討
・どんぐり横丁・どんぐりの湯の非常電源確保	検討

—雇用・定住の取組—

●定住促進	
・空き家、空き地の確保	着手済
・住宅・空き家の情報収集・提供	着手済
・古民家、空き家、空き店舗の活用	実施予定
・定住コーディネーターの配置（支所）	実施済
・定住促進協議会の機能強化・活動推進	実施済
●雇用の拡大・創出	
・雇用情報の収集・提供	着手済
・旧田口高校跡地・施設の有効活用	検討
・休耕田を活用した農産物の生産拡大	検討
・農業生産者育成、営農体制の見直し	検討
・農林業の受託組織の新設	検討
・企業の農業参入	検討
・6次産業化の支援	検討

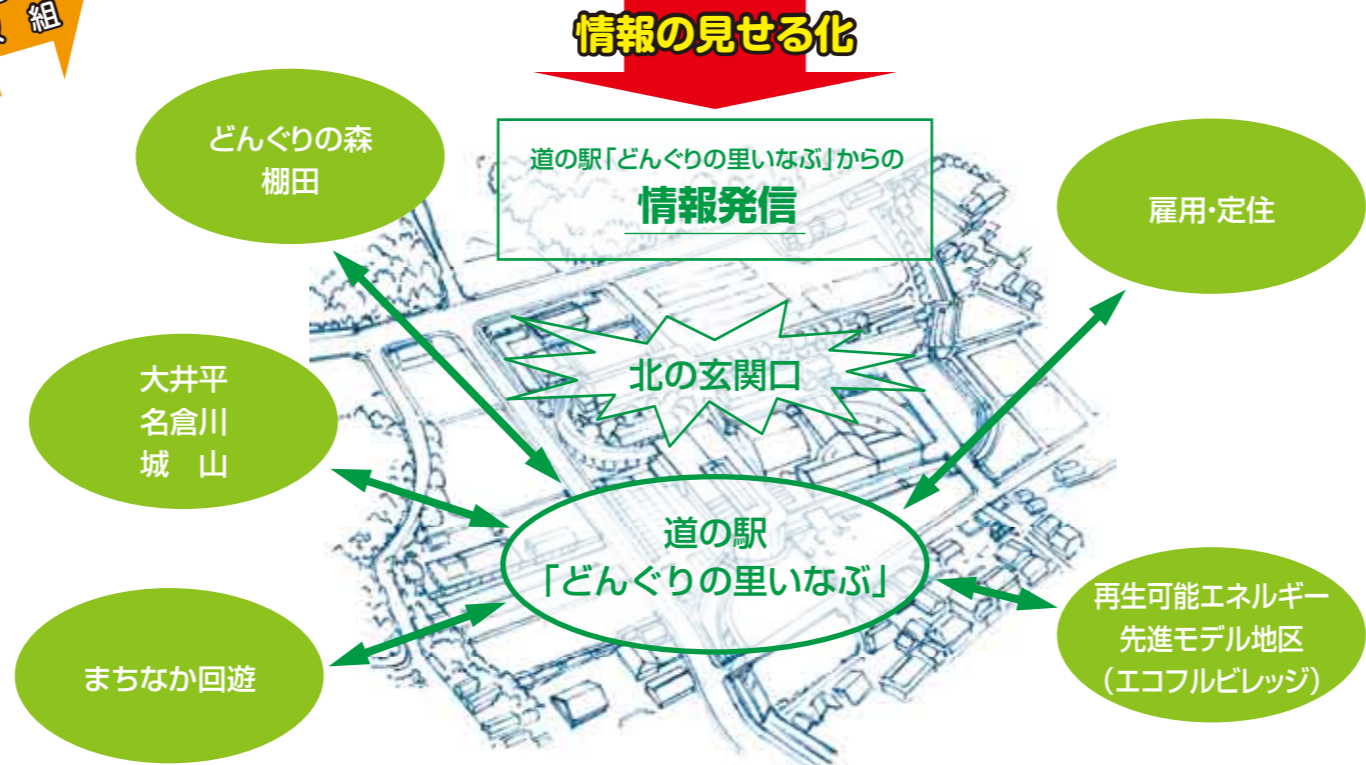
—再生可能エネルギーを推進する取組—

●先進モデル地区（エコフルビレッジ）	
・施設を活かした環境学習の展開	実施予定
・環境をテーマとした体験ツアー企画	実施予定
・新規エネルギーの導入促進 (木質バイオマス、水素エネルギー等)	検討

■活用する既存の再生可能エネルギー施設	
・面ノ木風力発電施設	
・小水力発電施設（大井平公園・富永町）	
・EV・PHV用充電器（道の駅・支所）	
・リユースバッテリーを活用した蓄電システム（支所）	
・中部電力 揚水式水力発電所	

—医療・福祉等の取組—

・自助・共助・公助の推進	実施予定
・医療・福祉のICT活用の可能性	検討
・買い物宅配サービスの運営	検討



道の駅へ情報集約

情報の一元化

道の駅へ情報集約